

栃木における南画の潮流 — 文晁から魯牛まで

2021年1月16日(土)から3月21日(日)まで、栃木県立美術館で企画展「栃木における南画の潮流 — 文晁から魯牛まで」が開催されます。県立図書館では、これに合わせて所蔵資料の中から関連する資料をご紹介します。

●南画とは

日本の文人画。江戸中期(18世紀)、教養人のあいだに中国趣味が盛んになり、長崎に渡来した来舶清人の影響を受け、狩野派など従来の漢画に対して新しい様式の絵を描こうとしたことに始まる。中国の南宗画の山水画風と一面では共通するが、職業画家の作品をも多く手本としており、様的に幅が広く、谷文晁に始まる江戸の南画は日本画や西洋画をも含むさまざまな画風を折衷している。

南画は文人趣味にあう画風であるために文人画と通称されるが、南画画家たちの出身・立場はさまざまであり、むしろ職業的画家である場合が多い。

●文人画とは

中国では文人(知識人)の余技的な絵画を専門の職業画家の絵画と区別して文人画といい(元来、画家の身分による区別であって様式を限定する言葉ではない)、日本ではその環境に即した独自の文人画風である南画が形成された。

(参考:『新潮世界美術辞典』(秋山光和[ほか]／編 1985))

■『南画』について

書名	著者名	請求記号	資料コード
日本南画史	山内長三／著	721/266	1101760658
文人画 往還する美	河野元昭／著	721.7/17	1106246158
原色日本の美術 南画と写生画 18	吉沢忠, 山川武／著	708/104/18B	1100884483

■谷文晁について

谷文晁の事績	磯崎康彦／著	721.7/18	1106256470
写山楼谷文晁のすべて	渥美國泰／著	721.7/8	1104612740
中国書画落款集	谷文晁／著	728.7/2	1103473714

■高久靄厓について

網掛けの資料は館内でご覧ください

高久靄厓 関東南画・山水画の正統	那須塩原市那須野が原博物館／編	T069/85/008.10C	1105283376
高久靄厓展図録	栃木県立美術館／編	T706/1/12C	1102072210
江戸文人画の彩り 高久靄厓(あいがい)とその師友	栃木県立博物館	T069/7/014.5C	1105850661
高久靄厓傳	人見伝蔵／著	T721/5/B	1105092520

■田崎草雲、小室翠雲など栃木所縁の南画家たちについて

田崎草雲先生の生涯	小室翠雲／著	T289/4.4/1	1102091756
石川寒巖作品目録	栃木県立美術館	T706/1/011.10C	1105626087
牧島如鳩展図録	江尻潔[ほか]／編	T706/37/008.11C	1106084872
足利市立美術館コレクションによる大山魯牛	小杉放菴記念日光美術館／編	T708/47/010.10C	1106351222

■その他

下野の画人とその代表作	野中退蔵／著	T721/3/D	1105092553
-------------	--------	----------	------------

本リストの資料は3階地域資料室の展示コーナーにあります。

栃木県立美術館がこれまでに開催した企画展の図録は、3階地域資料室にあります。(請求番号T706/1/)



〒320-0027 栃木県宇都宮市塙田1-3-23
 TEL 028-622-5111 (代表)
 028-622-5112 (本の照会・相談)
 HP <http://www.lib.pref.tochigi.lg.jp/>